

NOTE BOOK

徳日記帳

No. 5

年五部一

子季澤大

S O



一月三日 (日) 雲

今日から新しい日記帳だ。この日記帳で福光生活も終りだ。しつかり書かう。

今日は日曜日なので全校鍛錬日だ。五年女子は

今日から食料運搬だ。私達は掃除後お米運びを

した。少し図書館で本を暖めてあるとすぐ全校

運動を始めた。始めにかけ足、体操、つな引の

順だ。かけ足は全部やり、体操は最近めづらしい

のばかりだ。ふでたてふせや、帰つてくがやそわて

あへんに力を入れて起きるのや、馬鹿にした。体操が終つて、つな引

まじが始る時に、段々息が苦しくなつて来た。柿内先生が「はんえつらん

室へつれて来てくれた」つて、ストーブの所でまづてゐた。講堂の方で

元氣のよいかけ聲が聞えて来る。私は、だうしてこんななにかがよ

めいのかしらと考へた。お晝食まで図書館で遊んでゐた。午後寮

に歸つて、日記をつけ、編物をした。お夕食は節分の御馳走だ。



お煮つけや、お魚や、お赤飯、大豆、おかん、ぎん
 なんかどあつた。御飯の終ったあと、お豆をた
 べながら、宮地先生が節介についていろいろの
 お話をお聞きした。楽しいお夕食をすませ
 て寮に歸り、ほごき物をした。

二月四日(月)晴

今日から立春だ。立春だ、あつて今日は暖かい。
 一日めの授業をした。私は食後、大根運びに行
 った。雪がつもつてゐるの、ツリを引いて運んだ。
 雪が、とがけ、雪をかけた。がら運んだ。やつと

皆んなで、よいしょ。
 すんで、火鉢にあたつて、又又色々お話を始めた。圖畫、地理算
 数、理科の順で、二時間めまで、火鉢にあたつてゐた。三時間めにな
 ると、一ぱえつらん室に、三年女子がいなくなつたので、私達はそ
 ちらの部屋へ行つて、算数のお勉強をした。三時間めは、ずつ
 と算数をしておた。お書食は、お魚と、大根のお煮つけだった。

午後、寮に歸つて、たつの中で日記をつけ、私のクツキを編んだ。
 夕食後、もそのつづきを編んだ。

二月五日(火)曇

今日は、朝食後、大根運びをした。それから、圖書館で、編物をしながら、
 火鉢にあたり、男子とお話をした。四時間め、お裁縫で、四年生が

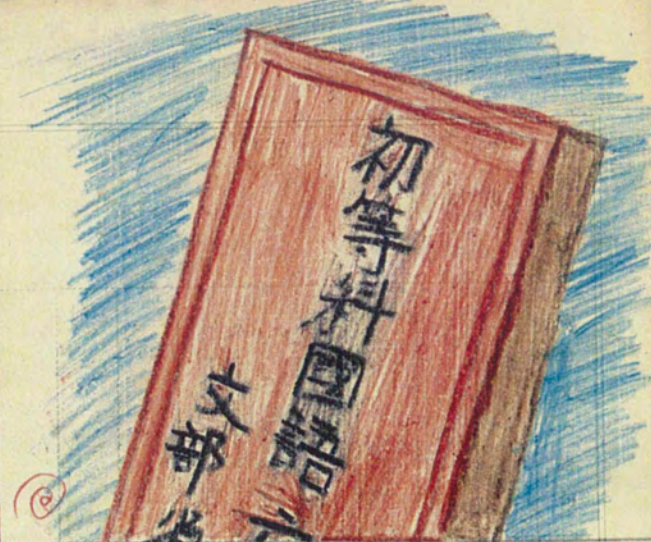


私達のお部屋へ来て、前かけと、シャツを見せ
 らされた。午後、寮へ歸つて、ぼくしてから、
 梅谷さんと、茂木先生と、お風呂をきに行つた。
 私達は、別にやらないで、茂木先生が、大部分を
 やつてくださった。それから、色々な人と、毛糸
 のこりかへつこをした。色々な毛糸が沢山た
 まつた。夕食後、お風呂に這入った。一番終り
 で、足袋や、シャツや、下バキを洗濯した。私の出
 る時は、熱くて、こ、這入れなかつたので、お
 湯をかぶつて出た。

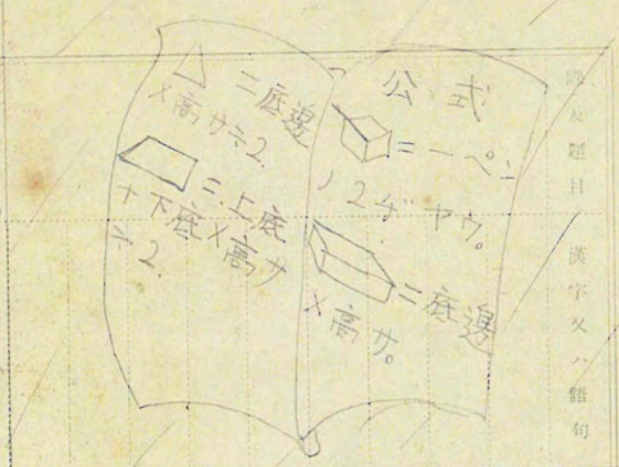


二月六日 晴
朝圖書館で堀先生がお歸りになったと聞いて、おつと喜んで飛び上がった。お裁縫室に行くのもう体操が始つてお堀先生が合禮をかける方にお立ちになり、與助先生がお裁縫室で堀先生のお話があった。今日は茂木先生は、ノートを取りにいらつしやつたのだ。堀先生のお話は東京へいらつしやつた日から、福光へいらつしやるまでのお話だった。お裁縫は布にかなかつた。お話がすんでから、授業をした。お裁縫は布にかなかつた。午後寮に歸つてしばらくすると、茂木先生が歸つていらつしやつた。柿内先生は午後堀先生のお話があるので、まだ歸つていらつしやつた。少したつと柿内先生も歸つていらつしやつた。それですぐ、教科書の、國語と算数のい

けない所を墨でぬりつぶしたり、切り取つたり、ノリではつたりした。國語は、大部がだめで、四の稲むらの火、六月の世界、七の柿の丸、八の冬三題、十五の漢字の音と訓、十六の塗物の話、十七の芽で、十一の、世界の織機は、豊田佐吉になり、十三、元日やが頃一つに、だれもくがかわつた。おしみなから順々に墨で真黒にぬりつぶした。これから習はふとする。一、二のまひもだめなのだ。段々黒くなる。切るのも大へんだ。その内に、四年生の出發用意になり、四年生のお掃除の人だけ、先に行つた。切つたのを、こつこつにして、本、田寮へ持つて行くのかと思つて、そろへてゐる内に、時間になつてしまつた。するど、柿内先生が持つて行かなくていいのよ。とおつしやつたので、やつとモリがつき、そのまま、函子校へ大急ぎで行つた。寮を出る時は、五時十分前だったので、お食事が始つてゐるかと思つて行くも、まだですはるとすぐ始つた。夕食後、與助先生が小泉さんのお家から持つて来てくださった、千おもをいただいた。



二月七日 晴 (木)
朝食前 本田寮からあみ運びをした。
食事後 本田寮に行き入 ^秋 先生に、國語と
算數のけいたし時を見ていただいた。圖書
館へ行って、五年男子が持つて来てくれた
小學五年生の本を讀んだ。四時間めは
理科だが、算數になつて十二時近くから
始つた。午後寮に歸つて、豆餅とあめ
餅と干るもを、お八にいただいた。
さうして日記を ^Q つけ ^Q。夕食後、寮で
讀んだ。阿部先生が
とたつに這入つて、小學五年生を讀んだ。阿部先生が
明日はうれしうことがあるぞ。とおつしやつた。私達は先
生に、學校中のことですか。朝ですか。？ お晝ですか。？ 夜で
すか。？ とお聞したが、こゝろあ、何だかわからない。とおつしやつて
^秋 中々、教へてくだらない。何だらう。？ 明日が ^秋 楽めだ。
就 歸用意の時、先生が胡桃割人形を讀んでいただいた。



今日一日の間に、何か一つ ^秋 樂しきがある。
算數を一時間めにやつた。さうして公
式を ^秋 習ひした。三時間めになつて圖
畫をした。今度は連續模様、單獨模
樣を書くのだ。私は失敗して、何回も何
回も書きなほしてゐる内に、お晝食にな
つてしまつた。だうも上手には書けない。
阿部先生が、さうばで ^秋 笑つて見ていつつ
やる。晝食後、寮に歸つて、こたつに這
入つた。このごろは寒いのぞ。日記が ^秋 ほかどうない。勉強
といへば日記ばかりだ。お夕食はカレーだつた。
まだお楽しみといふものは、あらはれない。何だらう。？
寮に歸つて、こたつに這入つてゐると、阿部先生が、今日
は、このお酒のお初のお祝ひで、私達も、ごちさうに
なるのですが、たべすぎることや、おぎやうぎの



悪いことはしないやうに。とおつしやつた。しはらくするにあ机を運んで、その用意をした。又、おりに、お茶めんで、お赤飯をいただいた。酒かすのお汁、や、おかに、たらの子、つけたのや、お魚や、はやびし、リンゴ、お、こ、等、出た。私は、御飯の二は、めでふうく、いつて、たうたう、お汁を、少、い、かを、一つ、の、こ、して、しまつた。すんで、かつ、こ、た、つ、に、這、入、つ、た、が、氣、持、が、悪、く、な、つ、た。就、寢、用、意、に、な、つ、て、お、手、洗、ひ、へ、行、つ、た、が、ま、だ、お、ま、ま、ら、な、い。其、本、先、生、が、い、つ、し、や、つ、て、お、薬、を、飲、ま、せ、て、く、だ、さ、つ、た。ご、あ、り、さ、つ、が、す、む、と、す、く、に、床、の、中、に、這、入、つ、た。さ、つ、ま、先、生、に、り、は、れ、た、の、に、の、こ、し、て、私、は、床、の、中、で、だ、う、し、た、ら、良、い、か、と、思、つ、た。




朝、目、が、さ、め、る、と、ま、だ、氣、持、が、悪、か、つ、た。は、き、さ、う、だ、つ、た、の、で、お、手、洗、ひ、へ、飛、ん、で、行、つ、た。で、も、だ、め、だ。歸、つ、て、先、生、に、申、し、上、げ、る、と、教、官、室、に、お、掃、除、當、番、の、人、が、い、ん、を、取、つ、て、く、だ、さ、つ、た。少、し、す、る、と、向、か、う、か、つ、集、合、!の、聲、が、聞、へ、て、來、た。先、生、が、歸、り、い、つ、し、や、つ、た。氣、持、良、く、な、つ、た。と、其、本、先、生、が、見、て、く、だ、さ、つ、た。私、は、ず、い、ぶ、ん、良、く、な、り、ま、し、た。と、お、答、へ、し、た。十、二、時、の、さ、い、れ、ん、が、鳴、る、と、又、出、て、い、つ、し、や、つ、た。お、夕、食、に、な、つ、て、皆、學、校、へ、行、つ、た。あ、と、に、細、川、先、生、が、い、つ、し、や、つ、た。私、は、大、ぢ、や、う、ぶ、こ、い、は、れ、て、う、れ、し、く、な、つ、た。あ、夕、食、は、先、生、が、お、も、湯、を、作、つ、て、く、だ、さ、つ、て、飲、ん、だ。明、日、は、き、つ、と、起、こ、ら、れ、る、と、思、ふ、と、う、れ、し、く、な、つ、た。

三
字
父
八
節
句

今日は休養日で、今日から食料運搬も終
りだ。午前中寮に歸つておこたつに這
入つて皆んなとお話をした。朝食は昨
日一日飽食したので、おろしかつた。食べる
前と食べたあとはちよつと悪かつたがす
ぐになほつてしまった。お晝食近くなつて
大木先生はお寺へいらつてやつた。お晝
食は理科室で、いただいた柳内先生だ
けだった。午後城端から野村さんに、
面会にいらつてやつて、毛糸とお菓子を持
つていらつてくれた。そして、日直さん
がお菓子をおかけしてくださつた。

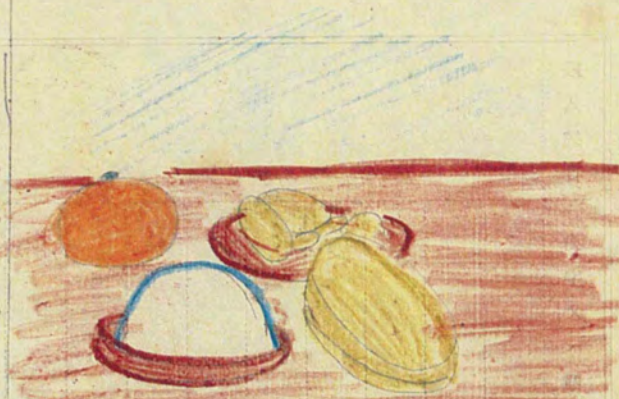
二月十一日(月)晴

今日は紀元節だ。よいお天気で、紀元節にはもつてこいだ
十時ころからお式が始つた。福光校といつしよにやつた。
紀元節の歌で、君々代の歌を歌ふともう、耳がガンガンし



た。なせかといふと、私のとなりの福光校
の生徒がものすごい聲で歌ってゐるのだ。
お式がすむと寮に歸つて、こたつに這入
り、編物をした。あこから編み始めた小
林さんや、梅谷さんも、ずいぶん進んで
ゐる。午後こたつにあたつて、日記をつ
けた。女の先生方は、學校に行つてお
夕飯のお仕事をとていらつしやる。
お夕食になり、學校に行くと、まだ早かつ
た。あまりあんのついたおはぎと、ガマのついたおはぎ。
お煮つけ、お魚など、とてもおいしかつた。おなかのはつた
ので、リンゴはのこして、寮に歸つてから、いたただいた。

二月十二日（火）雪後晴
今日は一日めの授業をした。圖畫は連續模様單獨模
のつづきをした。色もぬり、すつかり仕上げた。連續はオウ



ん、單獨はカタツムリにした。二時間は
 すぐたつてしまひ、三時間めの首が敷は始
 めワロバーの引首をやり、それから、のタイ
 のこいふのを習ひた。午後、寮で日記
 をつけた。お夕食、私は日直で、中根さんの
 食器を洗つたり、おさもぎを洗つたりして
 おくれで行くと八百谷さんが炊事場の
 所で、大沢さん、今日、てんぷらよ。とおしへ
 てくれた。なるほどよ。にはひがしてくる。
 こちらへ来て始めての久しふりのてんぷら
 うた。だいぶん前田さんのお家におよばれして、てんぷら
 をいただいたことがあるが、学校で出たのは始めてだ。
 大根おろしも出た。みかんも出た。お風呂は、一晩から、這
 入った。阿部先生がお家へお歸りになるので、あしたくを
 して、いらつしやった。私達が、お風呂へ、這入つてゐる時、
 阿部先生はお歸りになった。寝てから、高田先生がいらつし
 やった。



二月十三日（永）晴
 今日、二日めの授業だが、学校に行くとき、齊
 藤先生が、今日は、お天気が良りので、行軍
 に行くことにします。とおつしやった。
 お掃除當番でない人は、私達の荷物を持
 ちて行つて、靴を持って来てくださった。
 私の荷物は、他の方の荷物、が、夕いので持
 ちて行つて、ただ、ただ、ただ、ただ、ただ、
 野さんが持つて来てくださった。
 神社の境内へ行くとき、私に、葉書が来ておた。
 柿内先生が、大沢さん、うれし、うれし、と、
 おつしやった。胸をおどらせて、見る、と、お菓子を送りませ
 う。扁印は、四月一日から、復員する、さうです、から、六月まで、に
 は、お兄様は、歸れる、で、せう、な、ど、い、ふ、う、れ、し、い、こ、と、だ、つ
 た。尾又の方へ、歩いて、行つた。石崎さんが、途中、ま、寮、内、し、て
 くださつて、途中、から、光徳寺の方、が、寮、内、し、て、くださつて、第

化石を取りに行つた。ちよつとがけのやうな所へおりて行
 つて取るのだ。私達はあがないので上であつてゐた。
 三橋さんも行きたがつて私に何回も「おれ」と
 叫んでた。そのまゝで、たうたうこの生のお願ひだ。こゝは
 来て、かして上げた。いくらあつても出て来ないので、たう
 たうまうちくたびれてしまつた。下駄なので、雪道をう
 づけなくて困つてゐるとやうであつて来て長靴をか
 へしてゐた。加藤先生が「おれ」と化石をくんだつた。
 あんまり長いので柿内先生でそろく、歩き始めると
 後から下におおりになつた先生がいらつしやつた。
 おなかもうぺこぺこだ。午後、お矢部川へ日記や
 本や、編物を持つて行つた。日なたはつこをしながら
 石を捨つたり本を讀んだりした。瑪瑙石を捨つたり
 が見つからない。お夕食近くまで、小矢部川にゐた。



今日、二月十四日（木）晴
 今日もお天気なので、小矢部川へ行つ
 た。三年女子といつしよだつた。私達は
 荷物をお急ぎで、前田寮において来
 た。今日は高宮橋の近くで石を捨つ
 た。三年女子に教へてもらつて、瑪瑙を
 ぐうやうかうやうとつたまきのを捨
 った。なるほど、すきこはつてゐる。
 一生懸命さがした。やはり大まかな
 のは二つだ。お晝食になり、おなかを
 こぺこにしたが、学校に歸つた。午後、梅谷さん、机
 を使つて勉強をした。お八つに、カウリヤンパ、と干柿
 をいただいた。夕食後、寮に歸つて、娯楽会の、だいも
 くとをきめた。五年と四年と分れて、四年生は、赤
 頭布、五年生は、教育講談に出てゐる、孝女お露を
 することになつた。

三月十五日(金)晴



朝食後、準備室で、**体重測定**をした。皆がへつてゐるといふので心配だった。寒いので、うらばらに計った。私は同じなので安心した。だが、**歸る**日も近くなつてゐなかつたり、へつたりしては大へんだ。よくがんばつたべやう。体動測定の後、**福光女学校**の発表会を見せにいった。ごごのくにすはつて待つてゐると、校長先生の「あひさつが

三



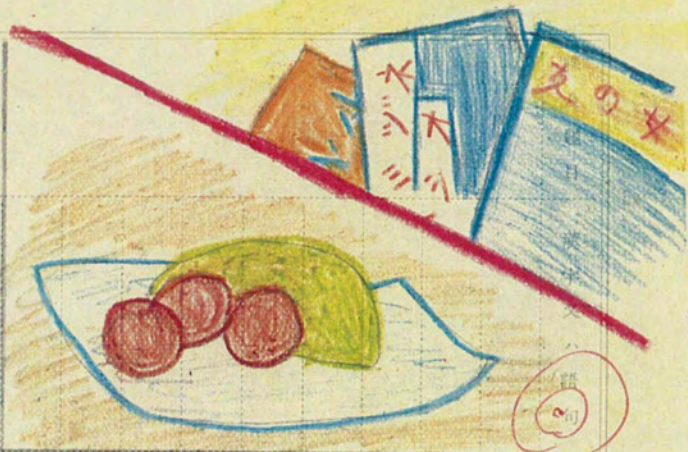
お目出度小僧を終りとして、お晝食に
 なった。お晝食後講堂に行くともう
 始つておてにぎやかか、ふえや、たいこの
 音が聞へて来た。ある日の水戸黄門
 や、附子もした。附子は野村さんのお
 父様がやつてくださったのと、だいたい
 同じだった。寮に歸ると、萩原さんに
 小包が来てゐた。少したつてから、西尾
 寮に、まきを取りに行つた。さて出
 て行かうとなると、まきのなかが切れ、ばらばらに
 なり、困つてしまつた。
 らばらになり、重くなつてそこにあつてしまつた。私は
 何んて、かなしだらう、もつと、元氣を出さなければ
 だめだと、一生懸命に歩いて、たうたうまきの所にお
 けた。土にあがると、もう皆んなとつくに來てゐて、娛



楽会のことをきめてゐた。着女お露の
 出てゐる本はないので、鬼のお面にした
 のださうだ。私は山賊の一人である。
 きめながら、萩原さんの小包に這入つて
 ゐた。ア、なんと、南京豆をいれたら
 鬼のお面とおかめの面を作った。夜は
 お風呂でお風呂に這入る前に、一回
 練習をした。山賊は顔に墨でひ
 げを書いて、鼻の頭をほほべにきめるの
 た。練習の終わった時に、高田先生がい
 かつてしまつた。

二月十六日（土） 曇 午後晴

今日は二日めの授業をした。男の先生方は福井の方
 へ見學に行つていらつしやつて授業は、一時間しかなが
 った。私達はお裁縫でモシペの布をたつた。今度か

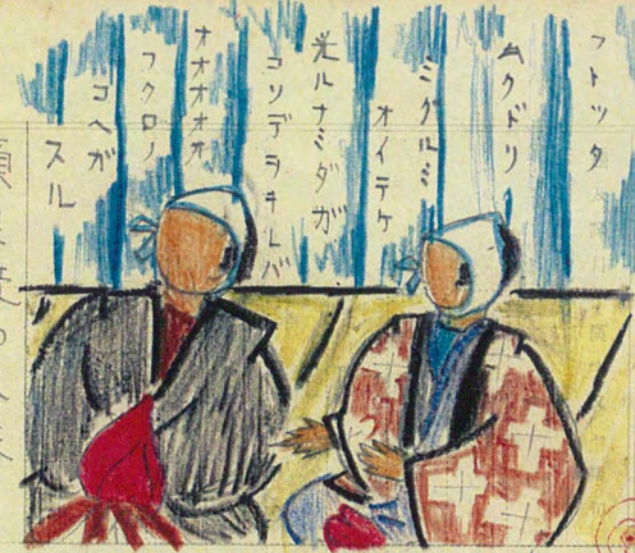


らめき縫ひをするのだ。午後寮に歸つ
 て、明日の娯樂會の練習をしてゐると、
 敬三をぢ様が私の小包を持つて来てく
 ださつた。うれしくなつた。まらなかつた。
 皆んなも喜んでくれた。すぐに教官
 室に飛んで行つて、柿内先生にお聞き
 して、小包をあけてもらつた。ただ、
 私はお菓子の這入つてゐる方を開き、坂
 口さん達に小さい方を開いてもらつた。
 た。ブリキの缶の中に這入つてゐた。ア、
 のついでゐるお豆とドウナツに這入つた。
 それがおコタツに這入つた。夕食後、娯
 樂會の練習をするま
 せてからドウナツのやうなのをワッフル
 のやうなのとク
 ルミをいただいた。クルミは久しぶりだ。
 とてもおいしか

フットタ
ムクドリ
ミグルミ
オイデケ
光ルナミダガ
コソデラキレバ
オオオオ
ワクロノ
コヘガ
スル

今日は、二月十七日(日) 曇雨
今日は、二部六年は、砂糖は、甘いと、いふた、りなので、何かと思つてゐると、良かん様のお習字の所だつた。二部六年の、幼きころは、幼稚園のころの、歌と、戯れた。二部六年の、砂糖は、甘い、は、とても面白かつた。討論会の前に、女の先生方が、父歸るの、劇をして、くださつた。是本先生が、お母さん

顔、洗つて来る、もう、四年生の、赤頭布が、始つた所だつた。二部六年は、砂糖は、甘いと、いふた、りなので、何かと思つてゐると、良かん様のお習字の所だつた。二部六年の、幼きころは、幼稚園のころの、歌と、戯れた。二部六年の、砂糖は、甘い、は、とても面白かつた。討論会の前に、女の先生方が、父歸るの、劇をして、くださつた。是本先生が、お母さん

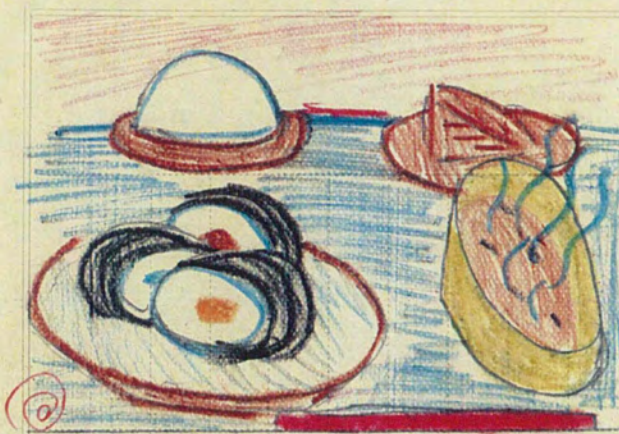


舟橋先生がお父さん、柿内先生がお兄さん、高田先生が、弟、米山先生が妹におなりになつた。本當のお芝居を見てゐるやうで、おどろいてしまつた。討論会は、山と海で、私は、山の方へ、這入つた。男の先生方は、宮地先生一人で、海にお這入りになつた。午後、寮に歸つて、アメと、南京豆と、大豆と、アラシと、日記をつけながら、こたつに這入つて、いただいた。夜、夏ミカも、半分づつ、いただいた。とてもおいしかつた。久しぶりに、いただいたのだ。

二月十八日(月) 曇、後雨、雪
今日は、第三日めの、授業をした。一時間めは、國語で、自習だつた。二時間めは、お習字で、源氏平家物語のお清書のおけいこをした。お習字の時間、あ、二時間、ながない。三時間めのお裁縫は、四時間めにして、いただいて、お習字をした。寮に歸ると、すぐに、

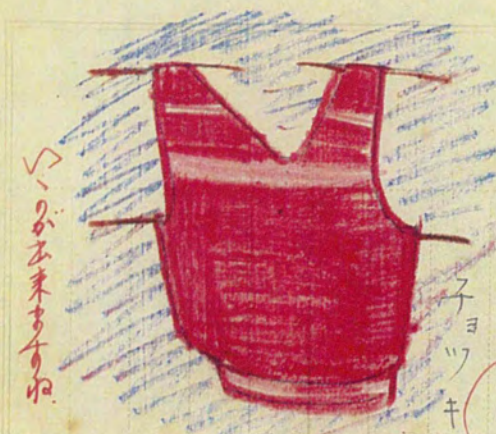


可愛いわ
だ、で、せう。



お裁縫を皆んなで始めてしまった。しばらくしてから下へ行って酒カスの焼いたのをいただいた。お夕食の時はさつきの酒カスで顔がホテッてく困った。新聞傳達の時に皆んながクスクス笑ふので食器洗ひの歸りに鏡を見るとなるほど顔が赤くて猿のやうな顔をしてゐるの
で、自分ながらうはづかしくなつてしまつた。
二月十九日(火)晴
今日は四日めの授業だ。朝今まで福井の方に付いていらつしやうした男の先生方が歸つていらつしやうしたのでにぎやかになつた。一時間めは加藤先生が火鉢にあたりながら東海の方のお話をお聞きした。二時間めの中ごろから圖畫を始めた。今日で最後の仕上げをした。理科はカビについてお話を聞いた。

お晝食前晝門先生がお歸りになつた。



た。今度(今日)が明日前田さんのお家で、お酒を作る所を見せただけのだ。午後、寮に歸つてよいお天気なのでお店の前で日なたぼつをし、ながら皆んなの日記を書き、そ水がら編物をした。お夕食はオスシにお魚にお味増汁のごちさうがあつた。オスシがとておいしくなつた。
二月二十日(水)曇時々晴、後雨
第五日の授業だ。一時間めは算數で、二時間めは、そ水がら、火鉢にあたつて、八百谷さんが私のサツキを編んでくださった。四時間めは、久し振りに國語をした。もうあんまり、墨をぬるたり切つたりしてする所がないので、十五の漢字の音と訓をお習ひした。お晝食は大根とことおもと、たらのあらのお煮つけだった。

午後、寮に歸つてから、岩丸先生にお手紙
 を書いた。夕食後、寮に歸つてから、仲々
 先生方がお歸りにならないうので、つまら
 なくてたまらなかつた。歸つていらつして
 つてから、チッキを見つけた。たう
 たうしつぱいしてしまつた。三角えりに
 なつてしまつた。又、ほら、編みなほ
 した。就歸用意になつてから明日からの
 ことを先生にお聞きした。私達が先生に
 だうしてどこにいらつしやるのですか？とお聞きしても
 ぶざけて皆んなが悪い子だから、良いい子になつたら、早
 く歸つて来ますよ。とおつしやつて、何々、教へてくださ
 らなう。明日から先生がどこへお出かけになるの
 で、他の先生が變りにいらつしやるのだ。まあ先生が
 教へてくださらなうのなら、私達がおとなしくある



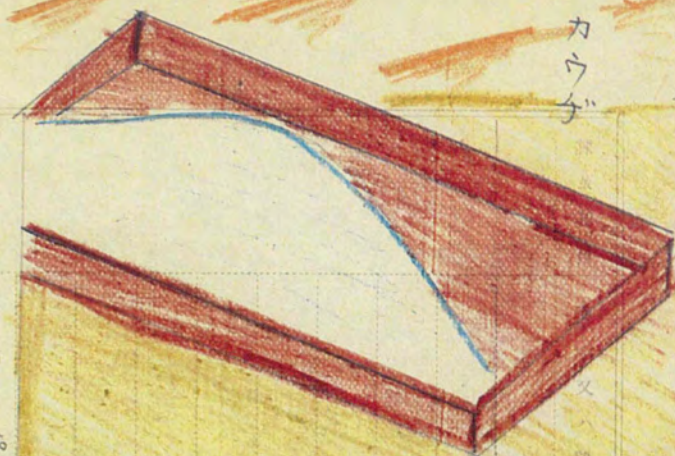
本當
ですか？

すい番をしてお水は良いのだと思つて、床の中に這入つた。
 二月二十一日（水）雪曇、後晴
 今日は六日めのお授業をした。一時間めは、本當は國語な
 のだが、四時間めにしていただき、理科のケニキウのお
 酒作りを見せていただき、なつた。始めの内は五年
 ①だけかと思つて、たが、あとからあつ
 から四年、男子、四年、三年、女子、
 ぞろぞろついで来たので、私達は「あや
 ちや、私達が勉強するの、五年だけか
 と思つて、三年生まで来たから私達
 の勉強がでまなくなつてしまふわね。
 いろいろお話をしながら、前田寮に
 ついた。だうせ三時間めまでやうな
 りので、理科と算数と音楽の授業道
 具は持つて歸つた。機械のあるやう

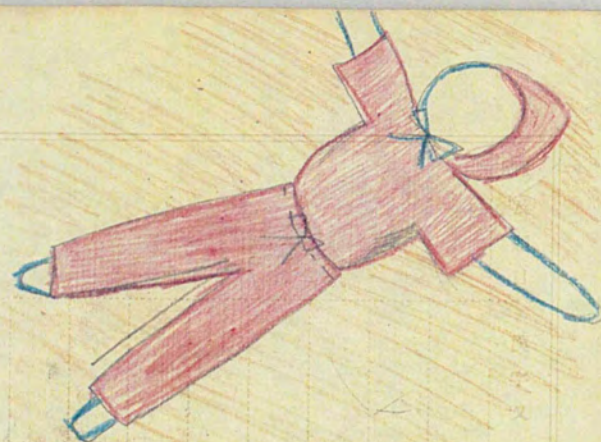


前田寮へ

カウヂ



な所を一番に見せてもらった。それから順々に奥の方へ行つて見せていただいた。地下室のやうな所は、とても温度が高く、中に這入ると、むづいてお酒の香がプーンと来て、このあ部屋はお水とカウヂを入れて、カウヂを作る所だった。約十分間その中にゐて、福本さんの説明をお聞きしてゐると、頭がぼおとして、ふらふらになつてしまつた。二階の方へも登つて行つた。お酒だるを板と板との間に、一メートルばかりのすき間があつて、そこから見ると、落ちこゝで、お酒ダルにも、いろいろあつて、水々しいのと、アブクだけのやうな、山あつた。それからめきの方に、むしろが引いてあつて、カウヂが干してあつた。それから、一ハバ半くらいひのセト



引きのタルの中にも、もう少しで、お酒になるといふ所も見せていただいた。面白いメカネをかけたを、ごさんか、お酒を面白機械から袋に入れて、シボツてあつた。最後の試験を見せられた。やはり、良々勉強出来なかつた。四時間めは、國語の十五、漢字の音とつて、四時間めは、國語の十五、漢字の音と訓を終つた。國語の時間が終つてから、喜門先生が大辭典を見せてくださった。午後、機を出して、日記を書いた。お夕食は、お煮つけだった。夜、近藤先生が、とまりにいらつてやつた。私達は、大部分の人が、お人形を作った。私も、桃色ツクニのお人形を作った。近藤先生は、石田先生のお家へいらつてやつて、おるすだった。その間に、百合子さんが、色々な、希を持て来て

くださつた。八時になつても、近藤先生はお歸りにな
らなりました。私も眠くなり、ので、日直さんに就寝用意を
八時半にのぼしていただきました。十五分くらゐに、先生が
お歸りになつた。寝る時に、近藤先生がおとぎ、百話の
(コガネの谷)を讀んでくださつた。

5

14

ア

世

7

100

1

16

1

二月二十二日(金) 雲時々曇
今日は休養日だ。休養日も先生がいら
つしやつないと、何だかつまらない。今日も
近藤先生がいらつしやつた。午前中、寮
に歸って、まず整頓をした。それから百
合子さんか、しコードを持って来てくださ
ったので、クランキをがけてくださった。
近藤先生が、こつちのお部屋にもいら
つしやい。とあつしやつたので、私は野村さ
んと迫水さんと八百谷さんと、教宮座

へ行つた。レコードを聞きながらふさ子ちゃんとお礼もちで
人に乗書を出した。いりいり可憐いりのや面白いのがあつ
さうなのをわけてくれたさつた。午後、こたつに這入つて、日
記をつけ、お裁縫をした。あ、夕食後七時半に床をしいて、
八時からの天皇陛下の玉音を、お聞きしに下へ行つた。
下のお庭の近くのお部屋で、こたつの中に這へらびていた
だいた。始まるまでこたつの中でいりいりお話をしてゐた。
私は陛下が私達臣民にお一人でお話をなさるのかと思つ
てゐた。がある工場で説明する人でお答ひになつたり。
お問ひになつたりした所だつた。でもめつたにお問ひに
ならずに、ただ「ああさう、うん、さう。」といふのばかりで
お聞きしてゐて一寸、氣ぬけがしてしまつた。

一月二十三日(壬辰)曇
今日は、種痘をするのだ。昨日は、火伏せの日とつて、二十三年前に福光町で、大火事があった日なので、火は、たいてはい



けないので、お風呂がたけなかった。今朝お風呂をたいて、這入るの。這入る前に私が加藤先生の所へ行き、加藤先生に先生の換装は出来ませう。と、いひに行つたが、先生が「うしやうなかつたので、喜門先生に申しあげて来た。私が圖書館のストロブのお部屋を出やうとする」と喜門先生が「這入りに行くぞ」とおつしやつた。歸るとすぐお風呂に這入つた。勢いで、水を入れやうとしても水ついで出て出ない。困つてゐると、オート（？）と、さういふ人のお父様がバケツに何回も水をくんで来てくださった。こつてやつと、ちやうど良いお風呂になつた。とてもよいお湯だった。午後は種痘をするので、裁縫室で待つてゐたが、あんまり待つ時間が夕方のので、たゞくつして、二部

六年の所へ行つて、お裁縫をやつてゐるのを見てゐた。堀井さんは白布を、ていねいに布の糸を三本ぬいて、それと、水いちを糸とほして、ハンケチを作つてゐた。大島さんは紙入水を作つてゐた。乙葉さんも相良さんもハンケチを作つてゐた。皆んなお土産物だ。三時過ぎで、かうやつと、種痘を、しに、講堂へ行つた。私は女医さんによつてゐた。私のは何々が、おが、なりので、い、なつてしまつた。もう時間もないので、寮には歸らずに、講堂の火鉢に、三須さんと寺田さんと、萩原さんと、野村さんと、あつてゐた。お夕食は、お魚が出た。寮に歸つてから、迫水さんの小包に這入つてゐた。チウインガムと、アメと、南京豆と、を、いただいた。たべてゐると、阿部先生が歸つて、いらつしやつた。阿部先生は、茂木先生や、柿内先生と、汽車が、同じだったとお聞きして、おつと、喜んで、先生方のお歸りを、今か、今かと、お待ちしてゐた。八時ころ、お歸りになつて、二

階に上つていらつしやつた。私達はう水くくて聲がざり
お歸りなさい。をいつた。阿部先生の方が長い間おわ
かされてのたのに、そんなかんじは、じはないが、茂木先生
や、柿内先生は、たつた一日間、なのに、一年間も、おあひ
しなうやうな、氣がした。
そんな長い様に思ひ、
皆んなが、今、あつた、
そなたに、苦です、
大急ぎで、

日記が、たもうた、探に、たうた、たね
あ、す、位、ひ、さ、か、り、し、か、り、頑、張、り、あ、せ、う、
繪、が、仲、々、と、く、お、来、て、お、あ、す、よ、
体、の、弱、い、人、は、自、分、で、氣、を、持、て、無、理、も、し、か、い、や、う、に、し、か、い、
と、い、け、あ、せん、よ、
大、澤、さ、ん、は、と、頑、張、り、あ、す、ね、そ、れ、は、大、変、な、ひ、き、す、け、じ、
自、分、の、体、に、よ、い、な、を、こ、う、し、て、い、け、あ、せん
福、之、の、生、活、も、ほ、ん、の、僅、か、に、し、か、い、た、ね、
あ、せ、う、あ、せ、う、
二十五日 陰

二十五日檢



二月二十四日（日）晴後曇
 今日三月三日の福光へおわかれの発表
 会の練習を各寮、同級生とにすることで
 授業はなかつた。前田寮は一搬えつらん
 室できめてゐた。今日から食料運搬で
 朝食後太根運びをすませてストーブ
 のお部屋へ行つたが童歌をすることが
 ないところまできまらなかつた。ストーブ
 にあたりながら編物（ヤウツキ）をした。
 後まで行つたが後を少し編んだ所で
 お晝食になつてしまつた。野村さんにも編
 んでいた。午後寮に歸つて日記をつけ明日の算数の試
 験の練習（練習、算、買、切）をした。夕食後阿部先生
 に圖畫を返していただいた。一學期のも二學期のも一し
 よに返してくださった。それからクダリまで阿部先生
 がお書きになつた圖畫をくださった。始めは十枚で私

は一番始めにクジ引にあたって、飛び上がった。喜んで、
 その内にあたうない人がかわいそうだとおぼえた。うたうた
 う。阿部先生は繪を十六枚お出しになつてしまつた。

二月二十五日(月)雨

今日(今日)は第二日めの授業をした。一時間めは国語で、塗り物
 の話に這入つた。二時間めはわら半紙
 に五線を四本書いて、荒野のぼろの
 と歌をうつついた。それからういよいよ算
 数の試験をした。十だいで、五だいが、ロ
 バン。あとが、今数だつた。あると思つてゐ
 た貫切が、出ないでわけのわからな
 い。今数が出たのでまじつてしまつた。
 やつとあやひやな答を書いてお出した。
 午後、日直さんが、足をおこしてゐる間
 に、しコードをかけた。童歌だけでなく



童ようもかけた。少しする之下の方がお餅つきをします。
 から見にいらいしやいとあつたので、下へ行つた。
 もうつき始めていた。見てから今度は丸くしていらつし
 やる所を見に行つた。男の人が上手に丸くしていらつ
 つしやつた。つきたてのはやほやの、あたふがいお餅をい
 ちだいた。お豆も入れていつていらつしやつた。つぶ水な
 いので、不思議だつた。二階にあがつてから、草餅をいた
 だいた。

二月二十六日(と)晴後曇

今日(今日)は第三日めのお授業をした。二時間めは、お習字の源氏平家
 物語のお清書をした。一度新聞紙に練習をして、それから私の半
 紙に書き、そして、氣を落ちつけてから、お清書を書いた。
 お習字は、私はあんまり好きではないので、だうしても、下手
 になつてしまつた。それからも、裁縫のモンペを縫つた。私はあ
 とまた下を縫へば良いのだ。四時間めもお裁縫をした。午後、寮
 に歸つて、スキに名前をつけた。明日は男の先生が、私達のスキ



の荷作りをしてくださった。お夕食前、早く寮を出て西尾寮にスキーを持って行った。学校に行ってからまだ時間があるので、お食事までお裁縫のつづきをした。すその三つを縫ひをした。食後、三室かんとネーブルをいったいだいた。寮に歸り、教官室でリングをいたただきながら、コードをお聞かした。就寢用意までに、モンペを仕上げた。あと、ポケットにつけただけだ。

二月二十七日(水) 曇雨

今日は明日の入掃除を今日にくり上げて、大掃除をするこ
こになつた。午前中、寮に歸つて一番上のたなから一番下の
たなまで全部荷物を下して、大部分は、荷物をまとめ、めし
まつた。途中、高田先生が、うっしやつた。私は、カウリに入れ
るカウリのふたをあけて、困つてしまつた。ふたの上に寒



つて、うん／＼おすとやつとおさまつた。まだよくかたづいて
いないのに、お書食の出發用意になつてしまつたので、てん
てこまいをしてしまつた。午後寮に歸つて、三ばあかんを
いただいた。日記を机を出して、書いた。夕食後、明日國
語の考査があるので、そのオニジの書取の練習や、かりし
やく、音と訓などの練習を、机を出して、
白百合のお部屋でやつた。

二月二十八日(木)

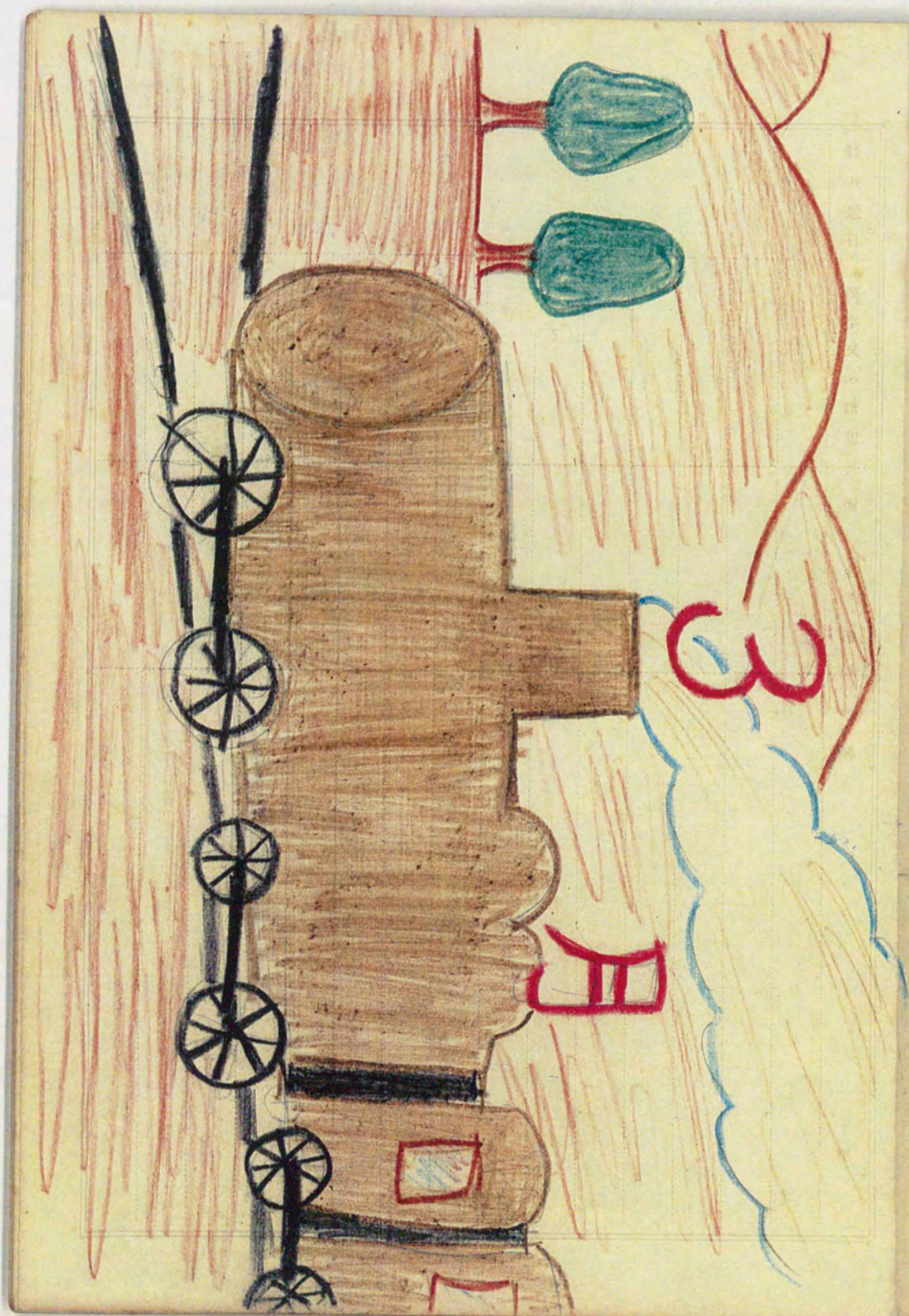
大根運びをすませてから、圖書館で、モ
ンペのポケットをつけた。やつとでこあ
がつた。それから國語の練習をした。
考査は、三番まであつて一番は書取、二
番は、かりしやく、三番は、音と訓だつた。
大部今度は、自心がついてゐた。四時間
めは、理科のお洒の作り方についてお話



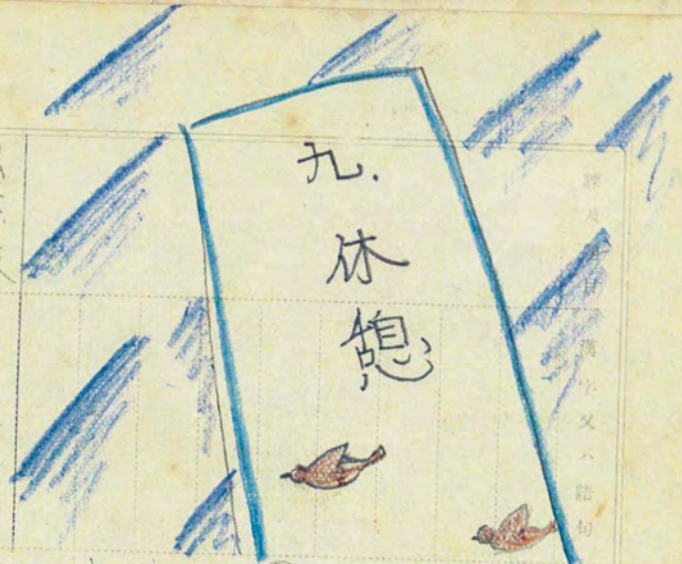
ウレシイッ



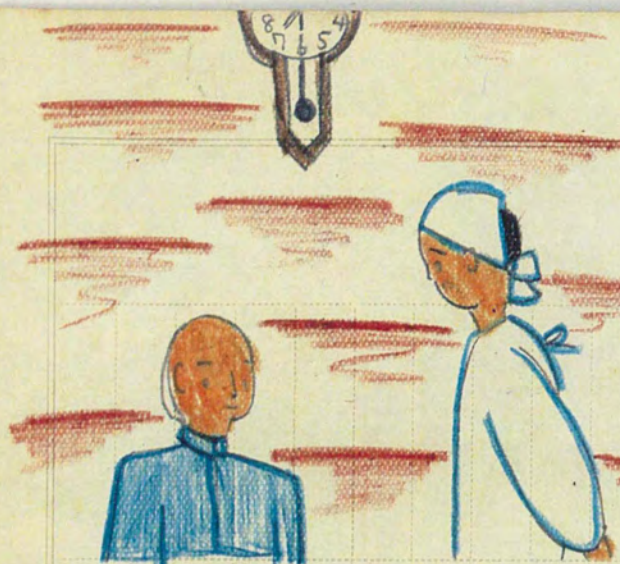
を、お聞きました。お書食は理科室で、
 求いた。お山先生にモンペを、お出し
 した。お掃除をすませて寮に歸る時
 三本さんが「歸る日きまつたぞ」といひな
 ら、走つて來たのでびっくりするやうにい
 いやうで走出してしまつた。宮地先生に
 もお聞きして「本當だよ。」電。ほづが交
 かんた。とおつしやつたので、もうむろ
 になつて寮に歸んで歸つた。三時ころ
 吉沢寮の近人の床屋さんへ、高島さんといつた。お夕食の時
 考春を返していただき。お夕食は、白米、お魚、お味噌汁
 じ、とてもおもしろかつた。夜は、お風呂で、お風呂に這入る
 前に、半分づつ、ネーブルをいただいた。かみ矢ひもして、床
 屋さんにも行き、とてもさつぱりした。二月も今日で終
 りだ。あと一週間、福先生、おつかり暮さう。



九. 休憩



今日から三月だ。あの一週間思ふと胸がぐく
わくする。午前中、ストーブのお部屋で少く
日記をつけ、それから午後、するプログラムを
作る道具(私はすずり)を取りに歸った。
図書館(蔵)へ来ると寮に歸るといふので荷物
を石川さんへにのんで寮に歸った。
寮に歸って半分づつ、三空カシをいただいた。
午後は、図書館の階上で、プログラムを書
いた。この組もニニ人くらいづつ組んだ。
私は坂口さんと野村さんと組んだ。私は二枚書かなけ
ればならないので困つてゐると一部六年の、小林さんと丹我
さんが、お手便ひをしてくださつたので、助つた。丹我さん
が挨拶。堀主事と、半紙に書いてくれた。その次の開會の
辞はむづかしいので、寺田さんが書いてくれた。今度は繪を
書くのに困つて、頭をひねりまはしてゐると阿久沢先生



が汽車の繪がよい。とおつして、紙にうすくかたちを
書いてくださった。小林さんが汽車の色をぬつた。全部で
きよると、順々に並べて見た。まだ時間があるので、六年生
は、発表会(感謝の会)の練習をした。その間、私は下のス
トーブのお部屋にゐた。お夕食の時、久しぶりにおいしいお
いしい、おたくわんをいただいた。お煮つ
けもあった。寮に歸つて、歌の練習を
した。三月二日(土)晴後曇
今日は午後、明日の練習をして、福光校に
見せるのだ。朝、出発用意を十五分早
くして、講堂で一回練習をした。堀先生が
お歸りになった。朝、大根運びをすませ
て、少し、ストーブにあたつてお裁縫室に
行つた。午前中、皆んなで練習をする
のだ。私は六番だ。童歌だ。

二部六年は塩井川と。そのつづきを今度はするのだ。すんで下へおりて行く。用意(舞臺)が少しできてゐた。お晝食まで圖書館にゐた。一番會の評がすめ。西尾察の二人の兄弟は、とても愉快だ。ぶづの兄さん、せつちの弟、お母さん、三墓あつて、一まくは、お母さんが大坪さん、お兄さんが、ことうさん、弟が秋葉さん、とても面白いがつこうとしてゐる。段々、すんで行く。福光放は、ずい分、かや／＼。始めた。先生の民衆、ようめりの時などは、いやになるほどさわりでゐた。終つて、少しする。お夕食になつた。お煮つけ、ムカ、煮たのがあつた。夜はお風呂で、二部六年が這入りに来た。私はお風呂に這入る前に、石崎さんの帳面に、俳句を、せ句、墨で書いた。二部六年がお風呂の中、^(お風呂)な、大さく、電記のついで、お風呂は、はじめてだ。と、目を丸くして喜んでゐた。私も、私のことではないが、二部六年が、こんな喜んでゐるのを見て、うれしくなつた。



東海道中

膝栗毛

二月三日(日)雨後曇。桃の節句。今日は三月桃の節句だ。午後は感謝の會である。午前中、先生方は、せいせき會儀なので、お達は、ストーブのお部屋で、日記をつけたり、葉書を書いたりした。今日が、食料運搬も縫ひだ。私のとなりでは、石崎さんが、ボスターを書き、いつしやつた。色々な水、いなる、のぐで、書いていつしやつた。私は、姫野さんのお家と、雑司ヶ谷に、葉書を書き、日記を、昨日まで、書いた。せいせき會儀も、すんだのです。お晝食になつた。食器洗ひに、行く。もう、お客様が、少し来て、いつしやつた。少しする。マコトちゃん、百合子さん、春子、お嬢が、いつしやつた。私の家のそばの、八百屋さん、お嬢も来てゐた。私は、ピアノ、リナリ、が始る前に、行つた。舞臺の上に、乗ると、胸が、どきどきした。すんで、舞臺から、おりの、胸が、すうつとした。

かたがうおも荷を下したやうだ。東海道中膝栗毛は何回
見ても面白い。大勢のお客様もどつとお笑ひになつた。民よ
うめぐりは阿部先生も中野小唄を今日はお歌ひになつた。
校歌の前に飛び入りの堀先生の、手品があつた。カウのトック
リからお酒が出るので火をたべるのだつた。だうも不思議
でしやうがない。堀先生の御挨拶のあとに松村さんの御挨拶
もあつた。とても大きな聲でいろいろなことをおつしやつ
た。終つてから、講堂のあとしまつを四年以上がやつた。お
夕食はおこめやお魚、お豆、ササガニの這入つたおつゆ、ミカン
のカニズメなど、沢山御ちさうがあつた。御飯は阿久沢につけ
ていた。だき御飯をたべる時に、ベト〜になつて困つた。
そろそろ先生方や私達の歌を始めた。今日、^(森田先生も)高
田先生も、山口先生も、茂木先生も、柿内先生も、^(喜間先生も)舟橋先生も、お
やりになつた。まつたくめづらしい。寮に歸つてから、森田
さんが持つて來てくださった。アノのははざと、さな粉のお



ササガニ

はざとを運んだ。

三月四日(月)晴時々曇雨

午前中、校門の所で寫眞をうつした。
うつしていった。だくまで、迫水さんの編物を
した。机を六年生が運んでくださったので、
その上に並んだ。いつまで待つても寫眞
屋さんが仲々來ないので、待ちくたびれて
しまつて、入るの上に腰をかけた。日なたは
つこをしてゐた。石田先生が呼びにいらつ
しやつて、やつと寫眞屋さんが來た。寫
していただいたから、小矢部川の方を寫しに行つたが、途中
で雨が降り出したので寮へ歸つてしまつた。それから大部
分の人は下に行き、おこしたつにあつた。私は上で、茂木先生
と柿内先生にさしあげる、俳句と圖畫を書いた。お晝
食は、始めて、圖畫室でいただいた。午後、寮に歸つて、さつ
きのつづきをし、日記をつけた。夜も、圖畫室で、御飯



をいただいた。寮に歸つて明日の踊のおけいこを、教官室で、前野さんと、高島さんと練習をした。今夜は眠いので、直ぐに就寝用意を、七時四十五分にして、いただいて、早く寝た。

三月五日(火) 晴後曇

午前中、荷物をすつかりまとめしまった。柿内先生や、代本先生が、色々やつてくださった。それから、本田寮へ荷物を持って行つた。お晝食、間近になつて、前田寮の前で、をぢ様や、まは様達と、寫眞を寫した。今日は、ドロン・ドロンのカレーがあつた。

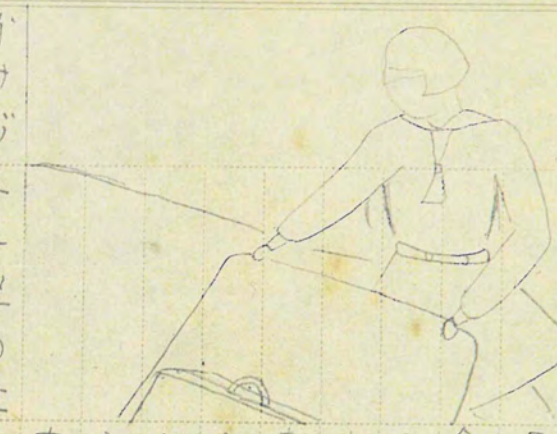
午後、すぐに、寫眞を寫しに、小矢部川へ行つた。寮に歸つて、ザウリをおいて行つた。福光橋を背景にして、取り、それから、隣の山で、匡王山を背景にして、取つた。理科室で、青年団の人が、顔におしろい

をぬつてゐたので、何だか氣味が悪くなつてしまった。テッポウで少し遊んでから寮に歸つた。それから、迫水さんの編物をした。七時か七時半ころ、お家の方との、晩祭會をやり始めた。二階の奥のお部屋に、黒いお盆の上に、色々な、御ちさうが並べてあつた。オトウワのお汁、白米の御飯、おさしみ、たけのこや、ねぎみたくのお煮物、カキの、もんぶら、オムレツ、たらの、お汁、三室カン、ハヤビシ、シネクリーム、の、クリームなどあつて、たべるのに困つた。少ししたつと、すぐ始つた。私は、道土寺の、小坊頭の踊るところを踊つた。おなかが一ぱいになつてしまった。マコトちゃん、の、ターザンは、何々面白い。まは様が、もう一回踊つてくださいとおつしやつたので、困つてしまつたが、少しごまかして、手まり歌と、愛國行進曲の一番をやつた。森田さんも、今日は歌つてくださった。最後に、森田さんの、マキシで、女高師萬歳と、阿部先生の、マキシで、前田家萬歳を、三して、うした。寝たのは、十時だつた。

三月六日(水)雨時々曇

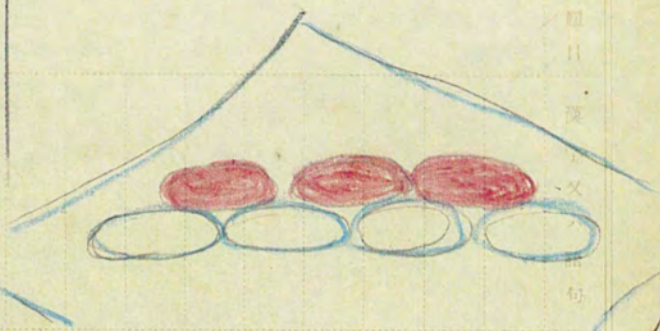
朝食後、女学校の裁縫室で体重測定をした。私は、五キロもふえてゐた。歸る時になつて、こんなにあつたのは始めてだ。それから、本田寮にお米をいただきに行つた。餅米が三合、ふつうのお米が三じやうもあり、まん丸いおべんとう箱もあつた。寮に歸つて見ると、もう人夫の方が來ていらつしやつて、荷作りをしていらつしやつた。荷物の清順もすんで、おべんとう箱に、名前を書いた。やつと、かたづけたいと思ふとお風呂だつた。中に押内先生がいらつしやつて、洗つてくださつた。お晝食後、明日のしたくや、何かをした。いよいよ明日歸るのである。お夕食は、理科室でいただいた。明朝、すぐ荷作りを出来る用意をしていただいた。明日眠りこけるので早く歸た。

三月六日(水)雪

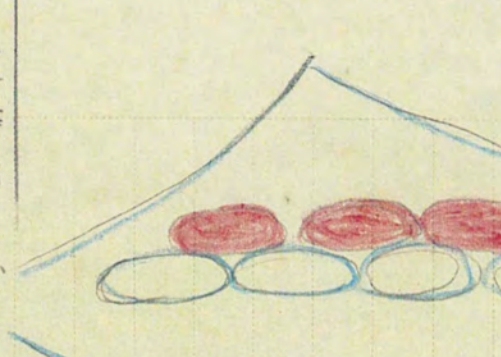


起床!は、六時にかかつた。飛び起きて、急いで服を着かへて床をたたんだ。今日は、ふくんの荷作りをするので、自分の寝た場所にもふくんをつんでをいた。洗面をする。すぐにもふくんの荷作りが出来るやうに、風呂敷にふくんを入れた。トランクやわらぐつ洗面道具などを、ふくんの間にはさんだ。敷ぶくんをひろげ、毛布を敷き、トランクやその他の物を入れ、おけぶくんとをのせて、又、その間に色々な物を入れた。それから、先生に荷ッダをいただりて、自分の荷物につけた。やつと少し落ちついてから、南京豆と、南京豆のアメを、大急ぎでたべ、それから、学校に行くついでに、圖書館の本を持つて行つた。朝食は、理科室。九時から、福光校とおわかれの式をした。町長さんのお話をお聞きし、又、福光校だ

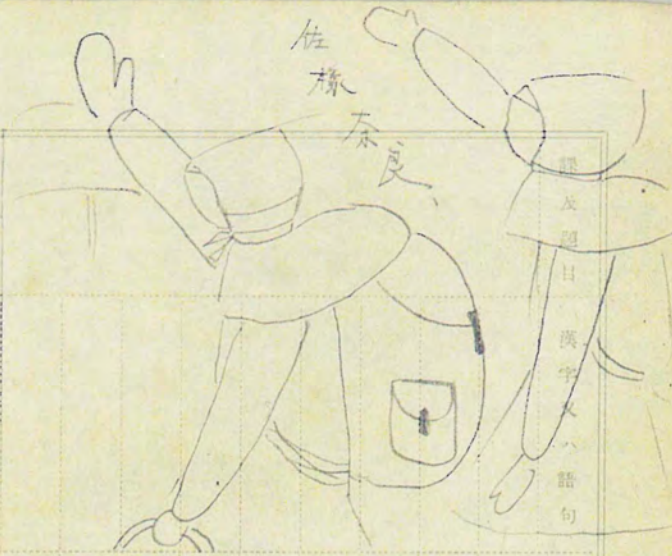
大福餅



餅



表の方のおわかれの餅をお聞きして、次ぐ
んでしまつた。お式がすんでから、六年生が
女高校へ行つた。その間、理科室にゐたが、阿
部先生の御用で、寮にお酒の空ビンを持つて
行つた。理科室に歸つて來ると、もうお晝食
の用意とおべんとうをつめてゐた。私は、私
のアルミニウムのおべんとう箱を、昨日の、あべん
とう箱に、這入りきつてしまつた。福光で、最
後のお食事、とてもおしく感じた。男の先
生方は、俳句をお作りになつて、黒板に、書いて、いらつしやつた。
てつかみで、子らへ行くなりめしの中、これは阿部先生である。
寮に歸り、すぐに出發できるやうに、仕たくをして、前田さんの
お家からの、お土産を、いただいた。赤白の、大福餅である。
下に行き、皆んなで、おこたつにあたらせて、いただいた。あたり
なづら、三室カニを、いただいた。出發時間、もせまり、私達も



郎をぢ様が私達のしたくを色々してくださった。寮を出発する時に、をぢ様におめか水をして行つた。版三をぢ様は横濱までいらつしやるので途中までいつしよに行くんことになつた。ホームに這入つて、少しすると百合子をは様春子をは様むつ子をは様、檢ちやん、誠にやんが来てくださった。いよいよ汽車が来ると、向かうから森田さん、私達は思ひきり、福光に「さやうなう！」をひびかした。前田寮はちやうど、客車に乗水た。窓をあけ、手を出して、一生懸命に手をふつた。汽車が動き出すと、福光にわかれるのがかなしくて、自然に涙が出ってしまった。何もいはずに窓から手を出して、外を見てゐると、をぢ様、檢ちやんに「誠にやん」

森田さん、いりりの先生の顔が順々ト、私の目に寫つて
 行つた。宮地先生が私の手をにぎつてくださった。見え
 なくなつてしまつてから、皆んなで家に歸れてうれい
 のやら、福光をあかぬのがかなしいやらで、笑ひ泣き
 をしてしまつた。敬三をぢ様が、私達の面白い顔を見
 て笑つていらつしやつたので、ばずかしくなつてしまつた。
 高岡で、約一時間半まつて本線に乘つた。私は三年生
 の、長屋さん、石川さん、東田さん、などといつしよのイスだ
 った。本線に乘ると、すぐお食事を始めた。おなか
 がすいてゐたので、とてもおいしり。七時ころ、又お食
 事をした。窓ガラスがないので、寒くて困つた。新聞紙
 や風呂敷で風をふせりだ。上から、雪が降り來んで
 來て、何々眠れない。敬三をぢ様が時々見まわ
 りに來てくださった。かしきりなので、とても落だ。
 少し眠つて、またまた起きて、こつき眠らなまやまが
 たもんにとさと、まるで石田先生の、古氣がしみた
 だ。



目がさめた。昨夜は寒いのでよく眠れなかつた。いよいよ今日家に歸れるのかと思ふとうれしくてたまらない。汽車がおくれたので急に赤羽でおりるはずだつたのが上野驛でおりることになつた。六時ころおべんとうをりたつた。窓から外を見た。熊谷驛を通つた時一寸昭子さんが来ていつしやらないかな?と思つたが窓がくもつてゐて外が見えないので別に氣になかつた。赤羽になると大橋先生と岩丸先生が車の中に這入つていつしやつた。しばらくおりで細目にかがり何だか涙が出てしまつた。八百谷さんのお父様とお母様も這入つていつしやつた。上野!上野!大急ぎで汽車をおり山手線に乗つた。郡先生と加藤先生や三輪田先生が

来てゐてくれた。外を見ると東京の焼あどが見え皆んな目を丸くして焼あどを眺めた。大塚で降り、駅から焼あどを眺めながら、学校へ歩いた。校門の所で六年生のお父様とお母様方が待つていつしやつてゐるのを見つけた。まうなくなつてゐあつた。いひながら電車通りを走り出した。校門を這入つてから、お父様と、手をにぎつた。おたんに手をかけた人があるのびつくりして、ふりかへると辰巳さんだつた。思はず「あつ」と聲を出した。なつかしいと思ひ出した。教室に這入つて、まず二度めの朝御飯をりた。本當ならば解散式をするのだつたがそのまゝ解散してしまつた。

三月	中旬	以降	四月	二旬	迄	行事表
七	日	娘	福光	出發	(午後一時五十分福光驛發)	
八	日	金	解散	我	(午前十時頃)	
九	日	由	休養			
十	日	由	休養			
十一	日	由	休養			
十二	日	由	休養			
十三	日	由	休養			
十四	日	由	休養			
十五	日	由	休養			
十六	日	由	休養			
十七	日	由	休養			
十八	日	由	休養			
十九	日	由	休養			
二十	日	由	休養			
二十一	日	由	休養			
二十二	日	由	休養			
二十三	日	由	休養			
二十四	日	由	休養			
二十五	日	由	休養			
二十六	日	由	休養			
二十七	日	由	休養			
二十八	日	由	休養			
二十九	日	由	休養			
三十	日	由	休養			
三十一	日	由	休養			

6	5	4	3	2	1	日 時 間
國	算	國	國		國 圖	1.
理	國	圖	字		算圖	2.
算	圖	理	裁		理	3.
音	体	理	算			4.
		理				5
						6
						7